

## LPガスCP速報(2021年11月積)

### 1. 11積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **870**  $\text{ドル}$  (前月比+70  $\text{ドル}$ )

ブタン **830**  $\text{ドル}$  (前月比+35  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が7年ぶりの高値で推移するなか、LPガス需給は、インドの需要(ブタン)に一服感があるものの、国慶節明け中国勢が戻り、PDH向けの引き合いもみられた。サウジの原油増産により供給面での不安はなく、米国玉の供給も潤沢、温暖な気候と高値で暖房需要も抑制気味、需給のタイト感は解消された。LPガス市況(極東CFR)は、原油市況に引きずられ、一時プロパン915  $\text{ドル}$ 、ブタン890  $\text{ドル}$ どころに急騰したが、第4週末にはプロパン875  $\text{ドル}$ 、ブタン855  $\text{ドル}$ まで軟化した。

米国では、プロパン輸出、需要ともに堅調(全米プロパン需要で輸出は60%を占める)、高水準が続いている。全米プロパン在庫は増加しているものの、直近で前年同期比77%に止まり、5年平均レンジを下方に突き抜けている(グラフ②はメキシコ湾)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、第2週に790  $\text{ドル}$ に達し、月平均では前月比90  $\text{ドル}$ 上昇の760  $\text{ドル/ト}$ どころ(グラフ①)。EIAでは5年平均を21%下回る低水準在庫の影響で、家庭用プロパン価格が2011年以来の最高値で暖房シーズンがスタートすると報告している。

フレート市況は、インドからの引き合いから船舶需給はタイト気味、市況は堅調に推移した。米国積(FOB)は極東着(CFR)との価格差が維持、拡大し市況下支え、米国向けの備船需要も輸出が堅調に推移すれば底堅い市況が続く見通し。

ナフサは原油価格に連れ高となり月初の720  $\text{ドル}$ から一時800  $\text{ドル}$ まで上げた。月間平均は770  $\text{ドル}$ どころで、前月比73  $\text{ドル}$ の大幅続騰。

バンカーオイルも原油市況に追随して推移、シンガポールIFO380は月間平均で前月比39  $\text{ドル}$ 高の509  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同97  $\text{ドル}$ 上げの705  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は197  $\text{ドル}$ に拡大した。

11月CPは前年同月比プロパン440  $\text{ドル}$ 、ブタン390  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン1、ブタン6ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン2ポイント、ブタン11ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	46	47	50	49	48
CP先物指標:P	845	840	860	840	846
CP先物指標:B	840	800	840	825	826

#### ② 原油市況等

10月の原油市況をみると、新型コロナ危機からの経済回復期待、欧米株価の上昇によるリスク志向を背景に、世界的なエネルギー需給逼迫懸念から大幅続騰、WTIは一時85  $\text{ドル}$ を上回り終値としても2014年10月13日以来の高値を付けた。天然ガス、石炭不足から価格が高騰、電力向けの石油シフトもあり原油市況を下支えた。一方、OPECプラスは7月に合意した協調減産の段階的縮小(毎月40万b/d)を維持しているが、一部産油国(ナイジェリア、アンゴラ、カザフスタン)では投資不足とパンデミックの影響で増産に苦心している。需要回復が続く中、需給ギャップは解消できず、OPECプラスJTC(共同技術委員会)は第4四半期に世界の石油在庫は110万b/d減少するとの見通しを示した。

EIAは冬期燃料見通しを発表、家庭用暖房燃料の米国の平均家計支出は、昨冬比プロパン54%、暖房油43%、天然ガス30%、電気6%の増加を見込んでいる、

○10月積みアラビアン・ライト(10月1~29日までの想定)は82.78  $\text{ドル}$ (前月比+7.09  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン678.74  $\text{ドル/ト}$  ブタン669.43  $\text{ドル/ト}$

AL比 プロパン128.18% ブタン123.99%

\*上記ALはEIN推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

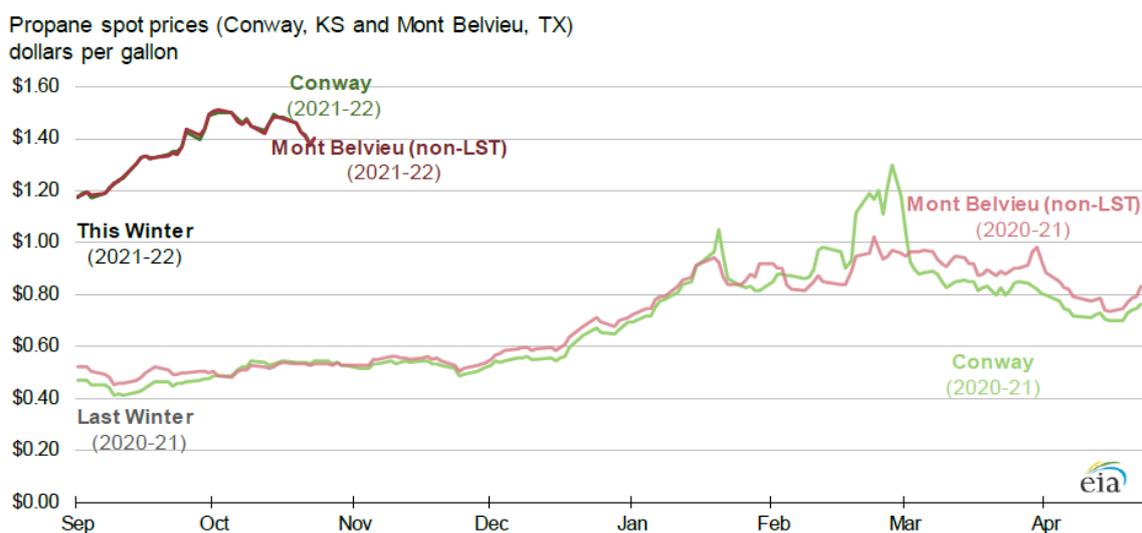
## 2. 2021年11月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	113.12	101,800	98,100	101,900	+13,200	+11,000	+12,700
②末日締め	114.11	95,300	92,700	96,300	+13,900	+11,500	+13,300

\*TTS平均について、①が9月21日～10月20日、②10月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは10月28日までの価格を基にEINで試算（760ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②米メキシコ湾岸プロパン在庫推移

